

目 次

シリーズ「〈家族〉のかたちを考える」によせて

- 序 章 「家族と病い」の比較家族史にむけて …… 田間 泰子 1
- 1 「家族と病い」の歴史 1
 - 2 「病い」という視座 4
 - 3 本書の構成 5

第 I 部 近世／近代における家族と病い

1 日本近世の死と病いと家族

- 第 1 章 死が身近な社会の中の家族 …………… 平井 晶子 14
- 歴史人口学的アプローチ——
- 1 病いと死 14
 - 2 いかにして死が身近な社会の家族をみるのか 14
 - 3 前近代社会の家族と死亡——ユーラシア・プロジェクトの
国際比較研究 16
 - 4 死が身近な暮らしの実像——「かの」と「小市」の事例 21
 - 5 流動的メンバーで構成される家族 23
 - 6 前近代の多死社会における家族の死 25
- 第 2 章 徳川時代における疱瘡／コレラ
と家族 …………… 中島 満大 29
- 死亡クライシスから感染症、そして病いへ——

- 1 感染症に起因する死亡クライシス 29
- 2 対象地域 30
- 3 高浜村と疱瘡 31
- 4 野母村とコレラ 35
- 5 病いとしての受容 42

第3章 幕末の日記史料にみる「家」

と看護 鈴木 則子 46

—看護とジェンダーをめぐる—

- 1 江戸時代の男性看病人たち——先行研究と本章の課題 46
- 2 『袖日記』の概要 48
- 3 長男松太郎（3歳）の看護 48
- 4 当主弥兵衛母の看護 51
- 5 妻ふき実家両親の看護 53
- 6 『瀧澤路女日記』——女性の日記に記録された看護 55
- 7 見えない看護労働とジェンダー規範 57
- 8 近代社会と看護 58

補論1

女性の超過死亡率と家族の特徴 鬼頭 宏 61

2 家族のいない子どもの病い

第4章 イギリス1834年新救貧法下における家族型施設

養育の展開とその意義 内本 充統 68

- 1 1834年新救貧法下の施設養育の動向 68
- 2 ワークハウスにおける貧困児童の施設養育 69
- 3 大規模収容型施設養育の誕生 73
- 4 家族型施設養育への転換の背景 75
- 5 施設養育の小規模化——コテージホームの導入 77
- 6 家族型施設養育の地域化 80

- 7 19世紀イギリスにおける家族型施設養育の意義 83

第5章 植民地朝鮮末期の香隣園における「病い」と疑似家族 田中友佳子 86

——「父子」「兄弟」関係に基づく孤児養育——

- 1 植民地朝鮮における近代的孤児施設の登場 86
 2 孤児院における死亡率の問題化 88
 3 香隣園における子どもの「病い」の要因と対応 89
 4 疑似家族による養育と教化 93
 5 「朝鮮の癌」への対応——「父子」「兄弟」関係の利用 100

第6章 乳児院における母性的養育剥奪論の盛衰 土屋 敦 103

——1960～80年代における施設養護の展開から——

- 1 社会的養護における母性的養育剥奪論／愛着理論 103
 2 母性的養育剥奪論／愛着理論の論じられ方 105
 3 機関誌『乳児保育』 107
 4 1950年代前半における施設児調査と子どもの発達の劣悪さ 108
 5 1960～70年代における施設養護と母性的養育剥奪論 110
 6 1980年代乳児院における母性的養育の剥奪・ホスピタリズム克服宣言 114
 7 1980年代における乳児院入所児たちの「脱病理化」 116

補論 2

- 18世紀ロンドンの訪問医療と貧民家族** ... 野々村淑子 119

第Ⅱ部 病いの特別イシュー

1 家族とハンセン病

第7章 戦前期日本のハンセン病者と家族 … 廣川 和花 128

—九州療養所「患者身分帳」の分析から—

- 1 「家」とハンセン病—近世から近代へ 128
- 2 近代日本におけるハンセン病者と家族—問題の所在 129
- 3 戦前ハンセン病法制における「収容」の条件 132
- 4 「患者身分帳」にみる〈療養所—本籍地—家族〉関係と法改正 135
- 5 「患者身分帳」等にみる〈病者—家族〉関係と法改正 137
- 6 「家」とハンセン病療養所—むすびにかえて 141

第8章 ハンセン病をめぐる〈家族〉

の経験 …………… 蘭 由岐子 145

—ある^{きょうだい}兄妹の語りから—

- 1 ハンセン病と家族 145
- 2 ある兄妹の語りからみる罹患世帯の状況 147
- 3 療養所生活における〈家族〉 152
- 4 語りからみえてきた家族と病いのありよう 156

第9章 韓国におけるハンセン人の子どもに対する

烙印と差別 …………… ^{キム}金 ^{ジュセジョン}宰亨 162

(翻訳: ^{ハム}咸 ^{リョジン}麗珍・田中友佳子)

- 1 非可視化された被害者 162
- 2 前近代におけるハンセン人の家族関係の変化 164
- 3 近代的防疫制度の導入とハンセン人の家族関係の解体 166
- 4 ハンセン人の子どもに対する管理統制の強化と子どもの差別経験 169

終章 「家族と病い」の歴史から浮かび上がる現代社会

- 土屋 敦 239
- 1 「家族と病い」の歴史を多角的に描き出すために 239
 - 2 「日本近世の死と病いと家族」——マクロ・ミクロ両方の視座から 240
 - 3 「家族のいない子どもの病い」——社会の周縁部での生活を余儀なくされた人々の生活から 241
 - 4 「家族とハンセン病」——「家族と病い」の歴史という視角から 242
 - 5 「家族とコロナ禍」——過去から現代社会を照らし今後の社会を展望する 243
 - 6 「家族」の歴史を「病い」という窓を通して見る 244

索引